

2023年3月9日

株式会社商船三井  
株式会社神戸製鋼所

## 鉄鉱石輸送専用船の豪州航路航海におけるCO<sub>2</sub>排出オフセットを実施

株式会社商船三井（代表取締役社長：橋本剛、本社：東京都港区。以下「商船三井」）と、株式会社神戸製鋼所（代表取締役社長：山口貢、本社：兵庫県神戸市。以下「神戸製鋼所」）は、豪州から日本への鉄鉱石海上輸送において使用した燃料での二酸化炭素（以下「CO<sub>2</sub>」）排出を、インドネシアの Rimba Raya Biodiversity Reserve プロジェクトから創出されたボランティアカーボンクレジット（註1）の活用により、オフセットする取組みを実施しました。

両社は、持続可能な社会の実現のため、CO<sub>2</sub>削減についてサプライチェーン全体での最適かつ効果的な取組みが不可欠と考えております。商船三井が、2050年ネットゼロ・エミッションの目標に向けて今から取り組める施策について他社との共創を模索する中で、グループのマテリアリティとして「グリーン社会への貢献」を掲げている神戸製鋼所がその考えに賛同し、今回の取組みの実施に至りました。

実際のボランティアカーボンクレジットを活用したオフセット航海は、商船三井が運航し、神戸製鋼所との鉄鉱石長期輸送契約に専属で従事するケープサイズバルカー「神山丸（しんざんまる）」（註2）にて行われました。兵庫県加古川市に所在する神戸製鋼所加古川製鉄所（以下「加古川製鉄所」）を出港後、豪州の Port Walcott 港にて鉄鉱石を積み、加古川製鉄所にて荷揚げを完了する約6週間の航海となりました。この間に神山丸が排出したCO<sub>2</sub>量は、燃料油の製造から本船で消費するまでの全過程で約2,875トンと算出されています（註3）。

また今回使用されたクレジットは国際的なカーボンクレジット基準管理団体 Verra の認証を受け、過去5年以内に創出されたものです。加えて、このプロジェクトはCO<sub>2</sub>の排出削減に寄与するだけでなく、生物多様性の保全や地域住民の雇用創出といった相乗便益に貢献しています。

両社は今回の取組みを契機に、サプライチェーン全体での効果的なCO<sub>2</sub>削減ならびに社会貢献を目指し、各ステークホルダーとの共創を加速していきたいと考えております。



鉄鉱石輸送専用船 神山丸



Rimba Raya 生物多様性保護区 © Infinity Earth

＜商船三井の環境への取り組み＞

商船三井グループは、2021年6月に発表した「[商船三井グループ 環境ビジョン2.1](#)」で、2050年までにネットゼロ・エミッションを達成することを目標としています。ゼロエミッション船の研究開発、低炭素船への船舶更新といった最大限の排出量削減を第一に取り組みつつ、日本企業として初めて脱炭素技術の需要喚起を目的とした[ファースト・ムーバース・コアリションに参加](#)するなど、多様なステークホルダーとの共創を通じて、自然および技術ベースのネガティブ・エミッションの創出にも取り組み、ネットゼロ・エミッションを実現していきます。

本件は、5つのサステナビリティ課題の中でも特に「Environment -海洋・地球環境の保全-」、「Human & Community -人の活躍と地域社会の発展-」にあたる取り組みです。



＜神戸製鋼所の環境への取り組み＞

KOBELCO グループは、2021年5月に発表した KOBELCO グループ中期経営計画(2021～2023年度)の中で、2050年ビジョンとして、生産プロセスにおいては「カーボンニュートラルへ挑戦し、達成を目指す」こと、また技術・製品・サービスによる CO<sub>2</sub> 排出削減貢献は「1億トン以上」を掲げています。すでに、多様な事業を営む総合力を生かした高炉工程での CO<sub>2</sub> 排出量を大幅に削減できる技術の実証に成功しており、この技術を活かした低 CO<sub>2</sub> 高炉鋼材 “Kobenable Steel” を国内で初めて実用化しました。今後も引き続き様々な分野で広くグリーン社会に貢献していくとともに、多様な事業・技術・人材の総合力を通じて、社会課題の解決に挑み、ステークホルダーの皆さまにとって「かけがえのない存在」であり続けることを目指します。

本件は、5つのマテリアリティの中で「グリーン社会への貢献」にあたる取組みとなります。



(註1) 今回活用したカーボンクレジット

プロジェクト名	Rimba Raya Biodiversity Reserve Project
国・地域	インドネシア
クレジット数量	2,933 トン(認証規則により排出量の102%を償却)
クレジット創出年	2018年
クレジットタイプ	Agriculture Forestry and Other Land Use (REDD+)
認証プログラム	Verified Carbon Standard
認証団体	Verra 米国ワシントンDCに本社を置く国際的なカーボンクレジット基準管理団体。気候変動対策活動から得られる排出削減量・吸収量を認証し、クレジットとして発行させる認証スキーム「Verified Carbon Standard (VCS)」を管理・認証する。VCSは、世界で最も広く使用されており、民間企業等で利用されている。
概要	生物多様性に富むインドネシア カリマンタン島の泥炭湿地林保護プロジェクト。SDGs への貢献を証明する SD VISta 認証 (Sustainable Development Verified Impact Standard) を17項目全てで取得している他、プロジェクトが気候変動、生物多様性、地域社会にもたらす便益に関する評価基準である CCB 認証 (Climate Community & Biodiversity Standard) においても、最上位のゴールドを取得している。

(註2) 神山丸

本船スペック：建造造船所	今治造船株式会社 広島工場
竣工年	2016年
載貨重量トン	215,790 トン
全長	319.95 メートル
全幅	55.00 メートル
満載喫水	16.25 メートル

本船概要 : 現在の神山丸は三代目で、商船三井の前身の一つである山下新日本汽船株式会社の時代から神戸製鋼所向け基幹船隊として原料輸送を担う。なお、1968年竣工の初代から1987年竣工の二代目を経て、現在の三代目に受け継がれる伝統の船名。

(註3) 同数値は第三者認証機関である Bureau Veritas (本社：フランス パリ。世界有数の規模を持つ認証企業) に拠って検証されている。また、検証の工程を含む CO<sub>2</sub> 排出量の算出からカーボンクレジットによる CO<sub>2</sub> 排出量オフセットに至るまでの全体プロセスも、第三者認証機関の Climate Neutral Commodity 社 (本社：スイス ジュネーブ。カーボンニュートラル商品や取引に関する認証サービス、またそれらに関連するアドバイザーサービスを提供している。) による認証を受けている。



<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社商船三井 コーポレートコミュニケーション部 メディア広報チーム

Email : [mrtmo@molgroup.com](mailto:mrtmo@molgroup.com) / TEL : 03-3587-7015

株式会社神戸製鋼所 総務・CSR部 秘書広報グループ

Email : [webinquiry6010@kobelco.com](mailto:webinquiry6010@kobelco.com) / TEL : 03-5739-6010